



2019 オートバックス全日本カート選手権 OK 部門 第1戦・2戦

開催場所 鈴鹿サーキット南コース(三重県)
開催日 4月27日・28日
参加台数 OKクラス 30台
天候 晴れ
路面状況 ドライ

～INTREPID JAPAN CORSE～

監督:佐藤奨二

ドライバー:水野皓稀 / 佐藤凌音

メカニック:伊藤進/橋本剛基

エンジン担当:K SPEED WIN

アドバイザー:井上寛之



2019 全日本カート選手権 開幕戦 (鈴鹿サーキット南コース/第1 & 2戦)

2019 オートバックス全日本カート選手権の最高峰カテゴリー、OK クラスが今年も開幕。今年は例年より約1か月遅れの開幕。また開幕の地は昨シーズンの最終戦を行った鈴鹿サーキット国際南コース。そして、エントリー台数は昨年の最終戦を上回る30台がエントリー。シャシブランドは実に11種、エンジン3メーカー、タイヤメーカー3メーカーがそれぞれのパッケージで激突する名実ともに最高にふさわしいカテゴリーとなっている。今年度のINTREPID JAPAN CORSE(ワークsteam)は昨年に引き続き水野皓稀、そして新たに昨年全日本ジュニアにてチャンピオンまであと一歩であった佐藤凌音が飛び級で最高峰カテゴリーへ参戦。

速さがあり、昨年経験も積んだ水野、そしてルーキーながらテストでスペシャルタイヤ、そしてハイパワーのOK エンジンへの対応、順応力を見せてくれた佐藤の分厚い布陣となった。監督は自身も全日本経験豊富な佐藤奨二、メカニックにはイタリア INTREPID 社でワークスメカとして勤務した伊藤進。そして、昨シーズンから当レーシングチームでもメカを担当していただくようになった橋本剛基、またアドバイザーとして現役のタイヤテスターでドライバーとしても大ベテランで経験豊富な井上寛之が両選手へアドバイスをおくる。またエンジンチューン担当はK SPEED WINの川口氏となっている。



水野 皓稀 選手



佐藤 凌音 選手

【金曜走行日～公式練習】



26日 金曜日、鈴鹿は朝から天候が目まぐるしく変わる天気。朝は豪雨、そして雨が上がると台風クラスの風が吹き荒れる。チームは金曜の走行2本目から走行を開始、タイムは常にTOP近辺、だが表彰台そして勝利のためには、もうコンマ1~2程詰めたところ。チームは刻一刻と変わる気温や路面温度にも意識をしながら大幅なセットではなく細かいセットに集中。練習走行～公式練習では常に強風が吹き、風の方向によっては、マシンのふらつきやタイムの変化が見られた…。ドライバーの2人はともに西地域出身であり、この鈴鹿が今シーズン唯一の西地域とあって、ここでポイントを稼がせておきたいところ。

【タイムトライアル】水野B組 4位(全体7位) / 水野B組 1位(全体4位)



抽選で決まるタイムトライアルのグループ分けは両選手ともにB組、ここ最近タイムトライアルクラス分けではB組よりA組の方がコンマ1~2程タイムが速い傾向にある。また、B組には経験実績共に抜群の選手たちが何故か多く集まり、ハイレベルなタイムトライアルになることが予想された。そんなB組のタイムトライアルは土曜日の14時50分にスタート、A組の選手たちがのせたラバーや金曜日からの強風とも戦うシビアな予選。両選手はタイムトライアル開始から約2分半が経過したところ走行開始、またほぼ同時刻に全選手がコースへ飛び出す。序盤、タイヤの熱が入りやすいフレームの選手からタイムが出始める。しかし3周目にはいり両選手のペースが向上、5周目にはルーキーの佐藤がなんと強豪選手達を抑えトップタイム！水野も4位のタイムを出す。佐藤は6周目にもタイムを更新しライバルたちもタイムを更新したものの堂々のトップタイム。クラス分けされたとは言え、なんとタイムトライアル1位を獲得。これはA組とのコンディションの差を考えると素晴らしいタイムであった。また水野も百戦錬磨の佐々木選手を抑え4位と健闘。昨シーズンここ鈴鹿でTOPも走った実力を見せる。しかしTOP5はタイム差コンマ1程で予想通りの大接戦となった。ルーキー佐藤にとっては今後忘れることがないであろうTOP通過となった。



【第1戦 予選】 水野 29位(リタイア) / 佐藤 13位



土曜日の夕方に行われる第1戦の予選。1周のデレイの後スタートなのだが、なんとスタートデレイ中に水野がキャブが合わずスローダウン…。最終コーナー立ち上がりからストレートにかけて懸命に押し掛けを行うが、エンジンはスタートせずリタイアに…。得意の地元。昨シーズンもトップを走っただけに無念のリタイアとなった。一方、4位スタートの佐藤もエンジンがかぶり気味。スタートで出遅れなんと2コーナー立ち上がりまでに10以上ポジションを落とし自身初めての最高峰、OKクラスの洗礼を浴びてしまう。懸命に追い上げ1台1台パスをし何とか13位でフィニッシュ。最高峰クラスのレベルの高さを早速肌身で感じる洗礼のレースとなった。

【第1戦 決勝】 水野 11位 / 佐藤 24位

日付変わって4月28日 日曜日、決勝スタート。水野は後方スタートだが、タイヤの残量は十分。佐藤は昨日の予選で追い上げた分、タイヤの摩耗が気になる決勝となった。スタート直後から気温が低いのか路面の問題か、INTREPIDに限らず昨日までのマシンの挙動と若干違う動きをするマシンが目玉に留まる。スタートでジャンプスタートとはいかなかった水野だが、タイヤの残量の多さを武器に着実にポジションアップ。一方の佐藤は昨日の好調と打って変わりタイムも伸び悩む苦しい展開に…。水野は着実に順位を上げながらもトップ10まで惜しくも一歩及ばず11位、そして昨日の予選でタイヤを摩耗させたのか、佐藤はずると後退し24位でレースを終えた。



【第2戦 予選】 水野 7位 / 佐藤 22位(最終ラップ リタイア)

同日に行われる第2戦は新品タイヤで仕切り直し、タイムトライアルの順位で予選のスタートとなる。スタートデレイもなくスタート。今度は昨日の予選と異なり両選手ともまずまずのスタート。スタート直後に佐藤の前方3選手のうち1選手がスピン。この間に佐藤は2位に浮上、また3位以降の後続はスピンを避け若干の間隔があき、予選レースは佐藤ともう1選手の2人が後続を引き離しながら引っ張る展開に。水野は5位～10位グループにベテラン、強豪選手とともに周回。先ほどの第1レースと異なり気温も上昇し、マシンの動きも非常に良く見える。そして、3周目のストレートエンドついに佐藤がトップに浮上。その後1度2位に落ちるシーンも見られたが再び順位を挽回し、最終ラップ。佐藤のエンジンが3コーナー立ち上がりで焼き付いてしまう…。これに2番手の選手も巻き込まれ、ここまでトップを走ってきた佐藤は無念のリタイアとなった。しかし、最高峰クラスでかなりの周回数をTOPで走れたことは佐藤にとっても大きな収穫と自信につながったことだろう。水野はタイヤを労わりつつも隙あらば抜かれるレース展開の中7位でゴール。労わったタイヤをフルに使い決勝では更に前方に行きたいところだ。



【第2戦 決勝】水野 18位(F スポイラー脱落ペナルティ) / 佐藤 11位

第2戦の決勝は1周のディレイの後スタート、スタート直後から上位～下位まで随所でバトルが展開されている。予選と比べると気温はやや下がりマシンの動きも心配されたが、タイヤに熱が入るまで若干の時間はかかったが挙動自体は問題なく、それどころか2台とも好調に見える。7位スタートの水野は上位陣のスタートの混乱のあおりを受け、スタート直後に若干のポジションダウンをしたが、前述の通り挙動も素晴らしく徐々に前方の選手へ接近し、落ち着いてパス。周回数が7周近くになると思ったよりペースが上がらないマシンの上位に出だし、それもパス。徐々に表彰台が見えてくる。そして上位陣でかなりのバトルが発生、一気に3位グループを吸収し混乱もあり4位に浮上。ペースもグループ内では一番いいように見える。そして、これまでバトルで消耗しているだろうタイヤを抱える3位を見事にパス。順調に周回を重ねるかに思えたが、ここで後続の選手が失ったポジションを戻しにかなり強引に仕掛ける…またバックストレートでは最終ラップのようなバトルがおこり、行き場をなくした水野は軽く接触もありながらポジションダウン…ペース自体はトップとほぼ変わらず、クリーンなバトルで上位にポジションを戻しただけに非常に悔しいポジションの戻し方…実はこの時の接触で後にフロントスポイラーがずれ、ゴール後にペナルティを受けることになる。レースとはいえ、どこか納得できないチームとしても悔しい結果だった。一方の佐藤は予選でトップを走る快走を見せるもファイナルラップにエンジンプロー、タイヤも予選で使い込んだかに思えたが後方より、こちらもトップタイムと変わらないペースでグングン追い上げ、11位でゴール。ゴール後にチェックしたタイヤのコンディションも抜群(水野も綺麗なタイヤコンディションだった)で、今大会はかみ合わなかったが今シーズンの両選手の活躍を非常に期待させるものだった。次戦、第3&4戦は6月1-2日に埼玉県の本庄サーキットで開催される。ここは本来、4輪用のコースであるが、全日本カートが開催されるカートにとっては超ハイスピードコース。ここでは昨年、水野がトップを走行し常に上位につける走りをしてだけに鈴鹿同様期待が持てるコース。ルーキー佐藤にとってはここからが未知の東日本サーキットゾーン。だが、今大会でつけた自信を胸に持ち前のスピードを発揮してほしいところだ。

今大会、トップ走行や表彰台まであと1歩と迫りながら悔しい結果となりました。しかし、たくさんの収穫と自信を深めたのも事実です。引き続き、チームとともに最高の結果を出すべく頑張ってください。

引き続きご声援賜れば幸いです。



#33 ドライバー 水野皓稀 コメント



今回のレースでは去年の最終戦の鈴鹿と比べタイヤのマネージメントが上手くでき、レース終盤までタイヤを持たすことができ成長が感じられました。
次の本庄は去年調子が良かったので更に上に行けるよう頑張ります！

#44 ドライバー 佐藤凌音 コメント



今回のレースは速さだけは見せられたかなと思います。
しかしアクセルワーク、ローリング中に注意すべきこと
スタート方法、パッシングの仕方、タイヤマネジメント
など課題が多く、これからの練習や、レースなどで
1つ1つ改善していきたいです。
チームの監督、アドバイザー、メカニックの方々
BRIDGESTONE 様、INTREPID 様、スポンサーの方々、

今回応援してくれた皆さん、あまり良い結果を出せなかったけど、次の本庄までに少しでも改善して良い結果にしたいです。ありがとうございました。

